

## Characteristics of IgA nephropathy in advanced-age patients

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大島, 康子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032088">https://doi.org/10.20780/00032088</a>

## 主論文の要旨

### Characteristics of IgA nephropathy in advanced-age patients

(高齢者における IgA 腎症の特徴)

東京女子医科大学 内科学(第四)教室

(指導：新田孝作教授)

大島 康子

International Urology and Nephrology, 47(1):137-45 2015 に掲載

IgA 腎症の好発年齢は 30 歳以下と若年である。しかし、高齢者の新規診断例も散見されるが、その特徴はいまだ明らかではない。本研究の目的は、高齢者における IgA 腎症の特徴を検討することである。

対象は 1992 年から 2011 年に当科で診断された IgA 腎症患者 600 症例で、これを高齢者群 (60 歳以上、n = 31)、中間年齢者群 (40-59 歳、n = 162) および若年者群 (20-39 歳、n = 407) の 3 群に分けて後方視的に解析した。

若年者群と比較して、平均血圧および高血圧症の罹患率が高く、血清アルブミン値と推算糸球体濾過値 (eGFR) は低値で、血清尿素窒素、尿蛋白および尿中 N-アセチルグルコサミナーゼ (NAG) は高値であった。病理学的には、若年者群に比し、高齢者群で動脈硬化、間質性線維化および尿細管萎縮の程度が強かった。腎予後は、若年者群および中間年齢群と比較して、高齢者群で不良であった (高齢者群 22.9%/19 年 vs. 中間年齢群/若年者群 69.2%/84.9%/20 年、 $p < 0.0001$ )。さらに、高齢者群のうち、末期腎不全への進展を認めた患者は、認めなかった患者と比較して、平均血圧は高く、より高度な蛋白尿を認めた。

高齢者における IgA 腎症患者の特徴は、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症などの併存疾患に起因する低腎機能、高蛋白尿、重度な間質性変化および動脈硬化であった。腎機能の予後は、若年者と比較して不良で、20 年以内に 70%以上が末期腎不全へと進行した。(600/600 文字)